

事業所評価（企業・福祉事業所）

資料 3-8

		企業			福祉事業所	
		既に獲得している能力	卒業までに身に付けてほしい能力	雇用継続に必要な能力とされる	既に獲得している能力	卒業までに身に付けてほしい能力
依頼事業所数		8			28	
回収事業所数		4			19	
回収率		50.0%			67.9%	
回答の選択肢	挨拶・返事	2	2	0	14	8
	社会のルール	0	1	0	2	8
	仕事への意欲	3	1	4	7	8
	指示理解	3	1	2	9	4
	コミュニケーション能力	0	3	0	1	6
	作業の巧緻性	0	0	0	1	0
	自力通勤	1	1	1	6	6
	体力	1	1	1	5	1
	責任感	0	0	2	0	2
	協調性	2	2	2	2	7
	その他	0	0	0	2	3

回答の傾向から分析する今後の課題

【挨拶・返事】

「既に獲得している能力」としての回答が多いが、「卒業までに身に付けてほしい能力」としてもあげられている。コミュニケーションの一つでもあるため、引き続き、児童・生徒への「挨拶・返事」について教職員全体で改めて共通理解し、取り組んでいく。

【社会のルール】

「卒業までに身に付けてほしい能力」に多く回答がある。社会生活を送る中でのルールの理解を学校生活や教育活動の中で取り上げて指導をしていく必要がある。

【仕事への意欲】

「既に獲得している能力」「卒業までに身に付けてほしい能力」や「雇用継続に必要な能力」としてもあげられている。作業学習や職業などの時間において、働く意義はもちろんのこと余暇時間の使い方や自分にとっての楽しみの見付け方について、保護者と連携しながら指導していく。

【コミュニケーション能力】

個々のコミュニケーションの取り方はさまざまである。高等部に進学する前から段階的にそれぞれの『伝え方』の力を育成するとともに、さまざまなツールを利用し一人一人に合った気持ちの表出ができるよう学習活動等を通して見付け、学年・クラス・保護者と共有しながら身に付けさせていく。

【協調性】

「卒業までに身に付けてほしい力」として多くの回答を得た。集団生活の中での活動や作業学習等で、周囲とのコミュニケーションを図りながら、協力できるような場面設定等を行い、一人一人の力を育成できるよう取り組んでいく。

【その他】

卒業前に、作業所は学校ではなく職場だということを教えて欲しいという意見もあった。学校は学ぶところ、作業所は働くところ。気持ちの面での切替えをさせていけるよう、意識付けを行うが、学校で学んだものが力としてそれぞれの働く場所で発揮できるよう、日々の教育活動・授業から取り組んでいく。